

6・11共産同政治集會に結集せよ

豊島公会堂・午後六時

帝国主義の侵略反革命 を世界革命戦争へ！

全都の労働者諸君、学生諸君、

インドナ革命戦争の拡大は、われわれの緊要の任務として次のことを要求している。

帝国主義者の侵略、区画を奪取からさくずく、革命戦争の勃発を欲心の極限につくり出す、われわれは連日プロレタリアートの武装努力としての要求を、

07年秋からはまった巨大な暴力闘争の波は、敵陣力との関係に同回となき敗北を喫しながらも、次々と高潮の段階を踏襲させ、いまや歴史的な武装勢力の萌芽をつくり出すに至っている。それは支那者の武装にくらべれば、いまはほんの卵の段階とはいえ、事項は既に出発しているのである。

カンボジア問題に際するカンボジア全議の組織にみられる偽政府の本格的な帝国主義政治の諸相は、政治、軍事、教育、社会……あらゆる領域にわたる敵と人民の矛盾を激化させようとはせぬが、当面の焦点は年々組織選進に向けて、このような武装勢力の拡大、維持、発展の条件はますます熾烈化する。

いまやこの武装勢力と権力との衝突をくり、奪い、あつめる闘争をこの闘争に結合させ、この段階への進展を意圖的にめざすことが、すべての闘争人民の義務となつてくる。

われわれは、この武装勢力が、プロレタリアートの世界革命を實現する世界革命戦争の主体として発展していく必要ならぬことを主張する。プロレタリアートの単一世界独裁だが、帝国主義早でもせん、いかなる労働者、産業界の圧制とキヤク絶に直面している被抑圧民衆と資本主義への進歩を阻む専横共の強制と闘つてくる労働者、國家人民の絶々の困難と苦境を解決し、共産主義への大道を歩む条件を形成できる。単一の司令部のもとに有機的に結合され、単一の正副題、市民革命に領導され、世界各地の武装闘争が世界革命戦争に發展することによってのみ、現在存在するあらゆる革命戦争、武装闘争、暴力闘争、大衆闘争はより豊かに全面的に開花する。

力にボリス侵略、反革命に打ち、武装紛争へ日本打倒の大衆闘争は、沖縄の侵略前線基地を攻撃し、自衛隊の帝国主義軍隊を打ちつて全面的対決に至る以後数年間の大闘争の出発点である。

最近の世界情勢の進展を受け、支那者の攻撃の矛は本一層鋭化された。70年沖繩進軍を機に一切の準備は整えられようとしている。この機を、われわれは手方に準備をつくりあげねばならぬ。

われわれは、社会主義の偉大な領域の運動に際わり、全面的階級形闘争を闘争し、また急進的……を追求するが、しかし、その急進闘争に際する社会主義者とは無敵である。

われわれは、闘争の出発点から、到達までを一切一國の範囲のみならず、沖繩進軍を民族主義の枠内にとどめず、日本軍に勝利するまでととし自ら位階を定めきれない中核的一國革命闘争に闘争することを主張する。

われわれは、後進國解放闘争の陣々しきだけを敵とし、そののみを争い、自らの主体性任務を忘れざる以上、同盟を準備する中国共産主義者運動の大衆を争うべきであるとする。

われわれは、異國人を襲撃する闘争にだけ一切をかせ、凶悪な進歩するといふ段階に達せられらぬよう、赤軍進軍等の軍艦隊闘争を日本野ラシアの進歩としてしりおける。

そう、われわれは、自らの運動力基の拡大をもつて、産業界、民族主義を支持し、帝国主義労働運動の担い手となつて労働者を資本家階級に打ち壊すを急ぐ。共産党およびその影響者である軍人階級に決していであらう。

われわれは、もろしたプロレタリアート内部の一切の反動的、日朝共産主義運動を打ち倒す組織的団体としてつくりあげねばならぬこの闘争の真諦とあらたである。

全国の労働者諸君へ、共産同政治集會に積極的し、70年代闘争へ新たな第一歩を踏み出すことははいか！

共産同六月政治集會

□日時 六月十一日午後六時
□場所 豊島公会堂

基調報告 「六月闘争と七〇年代の任務」
戦線報告 共青同、学社同、全国反帝戦線（準）
連帯挨拶 梅光子氏、小西元三曹、華青闘他。

共産主義者同盟